

長田豊臣教授 略歴 業績目録

略 歴

- 一九三八年一月 朝鮮に生まれる
- 一九六二年三月 立命館大学文学部史学科卒業
- 一九六五年七月 立命館大学大学院文学研究科修士課程西洋史学専攻修了
- 一九九三年三月 博士（文学、立命館大学）

（学内職歴）

- 一九六五年九月 立命館大学文学部助手（一九七〇年三月まで）
- 一九七〇年四月 立命館大学文学部助教授（一九七九年三月まで）
- 一九七九年四月 立命館大学文学部教授（現在に至る）

（学内役職歴（全学役職および学部役職））

- 一九九三年四月 立命館大学文学部長（一九九七年三月まで）
- 一九九七年三月 学校法人立命館副総長、立命館大学副学長（一九九八年二月まで）
- 一九九九年一月 学校法人立命館総長、立命館大学学長（二〇〇六年十二月まで）

（学会における活動）

- 二〇〇二年六月 アメリカ学会会長（二〇〇四年六月まで）

(社会における活動)

- 一九九九年三月 日本私立大学連盟常務理事 (現在に至る)
 一九九九年三月 文部科学省大学設置学校法人審議会特別委員 (現在に至る)
 二〇〇〇年四月 大学コンソーシアム京都副理事長 (現在に至る)
 二〇〇一年七月 文部科学省中央教育審議会大学分科会大学院部会専門委員 (二〇〇五年三月まで)
 二〇〇一年五月 大学基準協会理事 (現在に至る)
 二〇〇三年五月 大学基準協会副会長 (現在に至る)
 二〇〇五年四月 文部科学省中央教育審議会大学分科会臨時委員 (現在に至る)

業績目録

■アメリカ合衆国史—論文及び概説書■

- 「ジョージアにおける「再建」(上)——再建期分析の一試論」『立命館文学』二五六号(一九六六年十月)、七七〜九三頁。
 「ジョージアにおける「再建」(下)——再建期分析の一試論」『立命館文学』二五七号(一九六六年十一月)、五三〜七八頁。
 「南部における農民運動(Ⅰ)——ポピュリズム前史」『立命館文学』二八四号(一九六九年二月)、一〜三三頁。
 「南部における農民運動(Ⅱ)——人民党の闘い」『立命館文学』二八五号(一九六九年三月)、一五〜四四頁。
 「再建の時代——北部の再建政策を中心に」『立命館文学』二九五号(一九七〇年一月)、一〜二五頁。
 「黒人と革新主義」関西アメリカ史研究会編『アメリカ革新主義史論』小川出版、一九七三年、第七章、一四三〜一六一頁。
 “On ‘Origins of the New South in Retrospect: Political Structure.’”『立命館文学』(立命館大学文学部創設五十周年記念論集)三八六〜三九〇号
 (一九七七年十月)、一〜一四頁。
 「The Central Theme of Southern History——南部出身の南部史家の南部認識をめぐって」『アメリカ研究』(特集・アメリカの南部)一三号(一九七九年三月)、三三〜四五頁。

「南北戦争と再統一」有賀貞・大下尚一編『概説アメリカ史―ニューワールドの夢と現実』有斐閣選書八四九、有斐閣、一九七九年、第四章、八二～一〇六頁。

「スワードと南北戦争」『立命館文学』四三九～四四二号（一九八二年三月）、三四〇～三五二頁。

「（研究動向）ウッドワードの世界の再検討」『アメリカ史評論』一号（一九八八年十一月）、一～一〇頁。

「ユニオニズムの勝利」関西アメリカ史研究会編著『アメリカの歴史（上）―統合を求めて』柳原書店、一九八二年、第三章四節、二〇二～二一八、二二三頁。

「合衆国の再建―国家統合の観点から」『アメリカ史研究』七号（一九八四年八月）、一～八頁。

「（学会動向）アメリカの学会雑感」『立命館史学』七号（一九八六年六月）、八九～九一頁。

「アメリカ労働運動史研究の現状」今津晃・池本幸三・高橋章編『アメリカ史を学ぶ人のために』世界思想社、一九八七年、第七章、一六〇～一七九頁。

「南部―異なるアメリカ」岡田泰男編『アメリカ地域発展史―諸地域の個性と魅力をさぐる』有斐閣選書九一一、有斐閣、一九八八年、第三章、一〇七～一五四頁。

『南北戦争と国家』東京大学出版会、一九九二年。

「南北戦争と再建」有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』、世界歴史大系一卷、山川出版社、一九九三年、第五章、三七三～四六八頁。

「米国の国家建設と国民統合」歴史学研究会編（高橋章・加茂雄三担当）『近代化の分かれ道』、南北アメリカの五〇〇年、二卷、青木書店、一九九三年、第二章、一一四～一四〇頁。

「ギルデッド・エイジにおける国家―連邦裁判所のはたした役割と機能を中心に」『立命館文学』五三四号、（一九九四年三月）、二三一～二四四頁。

「岩倉使節団の見たアメリカ―ギルデッド・エイジのアメリカ」西川長夫・松宮秀治編『米欧回覧実記』を読む―一八七〇年代の世界と日本―一九九五年、法律文化社、第一章、一五～三七頁。

「歴史2―一九世紀」阿部斉・五十嵐武士編『アメリカ研究案内』東京大学出版会、一九九八年、第二章、二九～四六頁。

■アメリカ合衆国史―書評

「本田創造著『アメリカ南部奴隷制社会の経済構造』」『立命館文学』二三一号（一九六四年十二月）、六九～七四頁。

「守川正道著『非暴力から武装へ—アメリカ黒人闘争の歴史』『文化史学』二六号（一九七一年三月）、七七〜七九頁。

「再建史研究の総合—Eric Foner, *Reconstruction: America's Unfinished Reconstruction*」『アメリカ史評論』九号（一九九〇年十二月）、三九〜四二頁。

「V. C. Woodward: *The Strange Career of Jim Crow* (second revised edition), 1966」『立命館文学』二六七号（一九六七年九月）、七三〜八二頁。

■アメリカ合衆国史—翻訳

ウッドワード、C・V、『アメリカ人種差別の歴史』清水博・長田豊臣・有賀貞訳、福村出版、一九七七年。（担当箇所は、第二章「忘れられた別の選択の可能性」四一〜七八頁と第三章「人種主義への降伏」、七九〜一二五頁。）原書—C. Vann Woodward. *The Strange Career of Jim Crow*, 3d ed. New York: Oxford Univ. Press, 1974.

ガットマン、ハーバート・G、『金ぴか時代のアメリカ』大下尚一・野村達朗・長田豊臣・竹田有訳、平凡社、一九八六年。（担当箇所は、第三章「黒人組合活動家デイヴィスの世界、一八九〇—一九〇〇年」、一四一〜二五一頁）。原著—Herbert G. Gutman. *Work, Culture, and Society in*

Industrializing America: Essays in American Working-Class and Social History. New York: Knopf, 1976.

バン・アルスタイン、R・W、『アメリカ帝国の興隆』高橋章・長田豊臣・山本幹雄訳、ミネルヴァ書房、一九七〇年。原書—R. W. Van Alstyne. *The Rising American Empire*. New York: Oxford Univ. Press, 1960.

■科学研究費補助金報告

「アメリカ・ポピュリズムの構造分析」『欧米史上における民衆運動の諸形態とその発展過程』昭和五二・五三年度文部省科学研究補助金（総合研究（A））研究成果報告書（研究代表者 瀬原義生）、一九七九年、七八〜八一頁。

「シヤリヴァリとしてのク・クラックス・クラン運動」『欧米史上における「宗教意識・祝祭と民衆生活」に関する総合研究』昭和六二年度文部省科学研究補助金（総合研究（A））研究成果報告書（研究代表者 瀬原義生）、一九八八年、六五〜六六頁。

「アメリカ合衆国における国家形成過程の分析」『欧米史上における国家的集権化とRegionalismの分析』平成三・四年度文部省科学研究費補助金（総合研究（A））研究成果報告書（研究代表者 長田豊臣）、一九九四年、四〜一五頁。

「合衆国南部における階級と階級意識」『欧米史上における「身分・階級と職業」の総合的研究』平成七年〜九年度文部省科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書（研究代表者 望田幸男）一九九八年、七三〜七九頁。

■その他の著作

「『やまびこ学校』と『村を育てる学力』—ある戦後史—西川長夫・中原章雄編『戦後価値の再検討』、講座—現代日本社会の構造変化、有斐閣、一九八六年、第一章、三二～五八頁。

「(座談会) 二一世紀の大学像を探る」『大学時報』二七〇号(二〇〇〇年一月)、一六～三一頁。(清成忠男、奥島孝康他との座談会)。

「私の私立大学論」『大学時報』二七三号(二〇〇〇年七月)、一〇～一五頁。

「(一九九九年大学教育学会課題研究集会) 特別講演—二一世紀の大学教育について」『大学教育学会誌』四一号(二〇〇〇年五月)、三～八。

「(特集・日本の大学はどこまで構造改革できるか) 座談会」『カレッジマネジメント』一一〇号(二〇〇一年九月・十月)、四～一七頁。(大橋秀雄、杉岡洋一他との座談会)。

「(今月のテーマ・「国立大学法人」のすがた) 私学からみた国立大学の独立行政法人化」『IDE』四三四号(二〇〇一年十二月)、五〇～五四頁。

「(学長・塾長・総長インタビュー) 立命館大学・多様性とグローバル化を指標に個性ある創造的人材を育成する—長田豊臣総長」『文部科学教育通信』四三三号(二〇〇二年一月)、二二～二七頁。

「(今月のテーマ・「大学のトップマネジメント」を語る) 立命館大学のケース」『IDE』四四六号(二〇〇三年一月・二月)、六五～六九頁。

「(巻頭随筆) 丘の上—私の私立大学論」『三田評論』一〇五四号(二〇〇三年二月)、五～七頁。

「(特集・学術研究と社会—大学・研究機関で行われている学術研究の社会への貢献) 大学の学術研究の社会への貢献について—産官学を中心に」『学術月報』七一〇号(二〇〇四年一月)、四九～五二頁。

「(シンポジウム記録) 二一世紀における共生の可能性を求めて—大学の挑戦」『立命館平和研究』五号(二〇〇四年三月)、三一～四六頁。(出席者は、バーナード・クリック、朱成山他)。

「(特集・大学はどうなるのか?—私立大学の戦略) 立命館大学における大学改革の理念と戦略」『科学ISSN』八六〇号(二〇〇四年四月)、四八～四八五頁。

「(選ばれる大学・就職編) 長田豊臣・立命館大学総長—改革先駆大学の運営—分離統合で社会ニーズに応える」『週刊エコノミスト』三七〇〇号(二〇〇四年七月)、二二頁。

「(大学改革と第三者評価) 『大学評価研究』四号(二〇〇五年二月) 三～五頁。

「(私の青少年問題—私の子ども時代) 『青少年問題』六一二号(二〇〇五年六月)、四～九頁。

「(特集・私立大学大学院の現状と今後) 私立大学における大学院教育の将来像—文社系大学院を中心に」『大学時報』三一九号(二〇〇五年九月)、三六～四一頁。

「大学による国際協力―立命館と中国の関係を例に」『大学と学生』二二二号（二〇〇五年十二月）、二〇五頁。

「（今月のテーマ・大学院教育の新時代）大学院強化政策と私立大学」『IDE』四七八号（二〇〇六年二・三月）、二三〇―二三八頁。